

平成 26 年度  
一般 1 期 入 学 試 験 問 題

国 語

2 月 4 日 (11 : 10 ~ 12 : 10)

注 意 事 項

1. 問題用紙は、試験監督者の指示があるまで開いてはいけません。
2. 問題用紙と解答用紙(マークシート)は別になっています。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
  - ① 氏名欄 氏名及びフリガナを記入しなさい。
  - ② 受験番号欄 受験番号(数字及び英字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
  - ③ 試験種別欄 一般 1 期にマークしなさい。
  - ④ 教科・科目欄 国語にマークしなさい。
4. **I** **II** は必答、**III** **IV** については、これらより一題を選択して解答しなさい。
5. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、**10** と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように**解答番号10の解答欄の③**にマークしなさい。

(例)

解 答 番 号	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

6. 問題用紙は、試験終了後持ち帰りなさい。

全員必答 必ず解答すること。

1 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願します。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願します。

(市村弘正編『藤田省三セレクション』「或る喪失の経験——隠れん坊の精神史」による)

- (注)
- 1 新重商主義Ⅱ第二次大戦後の先進諸国が、経済成長の一つとして貿易黒字を重視したこと。
  - 2 カフカⅡプラハに住み、ドイツ語で作品を書いたユダヤ系の作家。日常性の奥にひそむ不条理を象徴的リアリズムの手法で描き、  
実存主義文学の先駆者とされる。代表作『変身』『審判』『アメリカ』『城』など。
  - 3 親指太郎Ⅱ子供のいないおじいさんとおばあさんに、観音様からもたらされた親指ほどの小さな男の子が、さまざまな苦難を乗り越えていくという、昔話の一つ。
  - 4 血清Ⅱ凝固した血液の上層に分かれてできる、淡黄色で透明な液体。免疫抗体などを含む。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア) シン|ニユウ

1

- ① 社会にシン|ジュンする悪弊
- ② 大義シン|を滅<sup>め</sup>す
- ③ 船舶による領海のシン|パン
- ④ シン|ソウに育った令嬢

(イ) カク|リ

2

- ① 事件のリン|カクが見えてくる
- ② カク|リヨウとしての手腕
- ③ 新しいイベントのキカク|立案
- ④ カク|セイの感がある

(ウ) ショウ|ウカ

3

- ① カ|を去り実<sup>じつ</sup>に就く
- ② 銀幕のメイ|カとたたえられた女優
- ③ 聖書の教えをキン|カ玉条とする
- ④ カゾウの太刀<sup>たち</sup>や陶磁器

(エ) ハン|ザツ

4

- ① 日常サ|ハンのひとつま
- ② 青春のハン|モンと鬱屈<sup>うっくつ</sup>
- ③ 西域をハン|トにおさめる
- ④ 季節によるハン|カンの差が激しい商売

(オ) ヨク|ヨウ

5

- ① ヨウ|の東西を問わず
- ② 陰にヨウ|にめんどろを見る
- ③ ショウ|ヨウに足る偉大な功績
- ④ ボウ|ヨウの嘆<sup>なげ</sup>

問2 空欄 a ) d に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 6

- |   |          |                        |          |           |
|---|----------|------------------------|----------|-----------|
| ① | a ややもすれば | b 嘘 <sup>うそ</sup> っぱちの | c わかりきった | d あっけらかんの |
| ② | a 取りわけ   | b いい加減な                | c 裏切れない  | d からっぽの   |
| ③ | a 取りあえず  | b でたらめな                | c 承知のすけの | d 素かんびんの  |
| ④ | a 得てして   | b 紛いの                  | c 百も承知の  | d 素っからかんの |

問3 傍線部A「その含意する社会的精神的射程範囲」とあるが、具体的にはどういうことか。本文の波線部の中で最も適当

なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 金もうけだけには必要以上にしたけれどもその代り生き方についての価値や規準は無くなってしまつて、何のための経済活動なのかその訳が分からなくなかなかねない。
- ② 国家とは機械的な装置なのだから、「国家のために生活する」ということは即ち生活が機械的装置の末端機関と化することを意味するだけである。
- ③ 大人たちがその辺を歩いていても、それは世界外の存在であつて路傍の石ころや木片と同じく社会の人ではない。
- ④ 人の住む社会の境を越えた所に拡がっている荒涼たる「森」や「海」を目当ても方角も分らぬままに何かのために行かねばならぬ旅の経験なのである。



問4 傍線部B「『親指太郎』の世界と『隠れん坊』の世界」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。8

- ① 「おとぎ話」と「隠れん坊」の主題は、形態をまったく異にするため、両者の違いがきわだっているかに見える。
- ② 「おとぎ話」の主題を「隠れん坊」に翻案して遊ぶことで、心身一体の胎盤がつかわれ経験が育つことになる。
- ③ 遊戯としての「隠れん坊」は、聞き覚えた「おとぎ話」の実践であり、実際の事実世界はすべて空想化されざるをえない。
- ④ 遊戯としての「隠れん坊」における一連の深刻な経験は、「おとぎ話」の語りからの経験の模倣にしか過ぎないともいえる。

問5 傍線部C「一連の基本的経験」は、傍線部D「一回きりの衝撃体験」と比べると、どのような違いがあるのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。9

- ① 路地に自動車が走り込まなかった時代に「おとぎ話」や「隠れん坊」を堪能たんのうできた経験と、その共同の空間を自動車が公道なみに疾駆し、危険にさらされている今日的情況との違い。
- ② 「隠れん坊」で仲間たちとはしゃぎ廻る陽気な活動と、眼かくしを終えた後、人っ子一人いない空白の拡がりの中に突然一人ぼっちの自分が放り出されたように感ずる一瞬との違い。
- ③ 「おとぎ話」と「隠れん坊」によって心身の底に注ぎ込まれ蓄積された経験と、大人に成長してから初めて受け取ることにより、抗体反応を起こすような激しい心の動揺との違い。
- ④ 一人の老人によって話される「おとぎ話」の主人公がたどる波瀾はらん万丈の物語と、言葉の使用を徹底して排除することで心身全体で行う、「隠れん坊」のような無言演劇との違い。

問6 本文の内容に合致しないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① 「おとぎ話」は、主人公がさまざまな苦難を克服していくことによって、予定調和としての結末に必ずや到達するよ  
うな展開になっている。
- ② 話と遊戯の統合的対応を子供たちにもたらす「隠れん坊」は、「おとぎ話」の改作ともいえ、形態はまったく違うにせよ、  
主題には緊密な繋がりがある。
- ③ モーターゼーションの急激な進行が、親しい外の世界における子供たちの「迷い子の経験」を奪っており、そのよう  
な社会的現状は看過できない。
- ④ 「新重商主義」は利潤の追求を第一にしたために、経済的成果は大いに達成したにせよ、精神的規範を突き崩す社会  
を現出させることになった。

全員必答 必ず解答すること。

II 次の文章を読んで、後の問い（問1～5）に答えよ。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願します。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願いたします。

(大森荘蔵『流れとよどみ——哲学断章』「確率と人生」による)

- (注)
- 1 イカサマⅡいかにも本物らしく見せかけた、にせもの。いんちき。
  - 2 パスカルⅡフランスの哲学者・数学者。数学者としては、確率論のきっかけとなったフェルマーとの文通などで知られる。
  - 3 云々するⅡあることについて、あれこれ口に出して言う。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の語句の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア) 緒を開いた

11

- ① 先入の見を持った
- ② 先見の明があつた
- ③ 先鞭せんべんを付けた
- ④ 先哲に学んだ

(イ) あがなう

12

- ① 負債を抱える
- ② 代償を支払う
- ③ 代価を支払う
- ④ 購入を果たす

(ウ) 否応なく

13

- ① 好悪を問わず
- ② 結果に閑らず
- ③ 可否を慮らず
- ④ 有無を言わせず

問2 空欄 a 〓 d に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

14

- |   |   |         |   |         |   |         |   |         |
|---|---|---------|---|---------|---|---------|---|---------|
| ① | a | 神かけて    | b | きっぱりした  | c | あてずっぽうの | d | 天からの    |
| ② | a | あてずっぽうの | b | 神かけて    | c | 天からの    | d | きっぱりした  |
| ③ | a | 天からの    | b | あてずっぽうの | c | きっぱりした  | d | 神かけて    |
| ④ | a | きっぱりした  | b | 天からの    | c | 神かけて    | d | あてずっぽうの |

問3

傍線部A「現在では『確率』という言葉が日常語になっている。しかしそのためにかえって、確率的な概念がもともとあった把えどころのなさが数学的舗装におおいかくされて素通りされてはいはしまいか」とあるが、筆者がこのように述べる理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

15

- ① 確率的な概念は、「多分」「恐らく」「万が一」「十中八九」といった、曖昧にせよ人間の生活の中に根ざしたものでして古くから用いられていたから。
- ② 数学的な確率論は、曖昧にせよ確率的な概念が根ざしている生活の中で、一回一回の出来事を生きる人間の心のありように迫ることが難しいから。
- ③ 数学的な確率論は、たとえば天気予報のように過去の気象統計を参考にして予測されている程度のものに過ぎず、当たり外れを云々する意味がないから。
- ④ 人間が生活の中で確率を問題にしたいのは、たいてい一回きりの出来事であり、数学的な確率論における予測はまったく意味をなしていないから。



問4 傍線部B「一回きりの個別的事件の確率を云々することは何を意味しているのだろう」とあるが、それが意味しているこ

ととして当てはまらないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

16

- ① 第三者の立場から自分の人生や生活を予測するのではなく、いったん予測したからには、未来に立ち向かう心構えと覚悟を持つこと。
- ② 決して明瞭とはいえない確率論の指針に対しての、きたるべき人生の賭けともいえ、その賭けの結果を自分で潔く引き受けること。
- ③ 文字通り自分の人生や生活を賭ける限りは、賭けに成功しようとする覚悟を強く保持し、よもや不適切な存在にならなないように努めるべきこと。
- ④ 単に予測の当たり外れを云々せず、これから迎える出来事をよりよく生きる、そのための心構えをあらかじめ設定しておくこと。

問5 本文の内容に合致するものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

17

- ① 人々が「多分」「恐らく」と言うときの態度は、数学者がある事柄の起こる確率を述べるときの態度と異なっているとはいえない。
- ② もともとから存在していた確率的な概念は、数学的な確率論が大系化されることによって、その性格が改めて評価されるに至った。
- ③ 個別的事件について確率的予言を試みたところで、確率いくらいくらということの正誤を確定できる方法は存在しない。
- ④ 個別的事件についての確率的予言と誓いの言葉は、どちらも個別的事件についての陳述であるという点で共通している。

選択問題 Ⅲ・Ⅳのうち、いずれか一題を選んで解答すること。

Ⅲ 次の文章を読んで、後の問い（問1～5）に答えよ。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

(夏目漱石『文鳥』による)

(注) 1 日課として小説を書いている時分 明治四十一年一月一日から「朝日新聞」に連載された『坑夫』の執筆当時をさす。

2 千代々と二声鳴いた 漱石の弟子で、本文に登場する文鳥を持ちよった小説家・鈴木三重吉の作品『三月七日』に「鳥が『クルクル千代千代お千代ッ』と啼く。(中略)鳥は棲り木を横にいじりながら千代千代千代お千代という。くるりと向き変ってまた千代千代という。こんどはお千代お千代お千代おちようッとしまいを甲走ッて長く引ッ張ッた」とある。三重吉は当

時、東京帝国大学英文科三年生。

3 瑪瑙<sup>マノウ</sup> || 石英<sup>セイント</sup>・玉髓<sup>ジュズン</sup>・たんばく石の混合物。紅・緑・白などの美しい色の模様を表す宝石。

4 一寸五分 || 約四・五センチメートル。

5 帯上げ || 女性の和装で、帯枕<sup>おびまくら</sup>（お太鼓の形に整え固定するために背に当てる、楕円形で厚みのあるもの）にかぶせて、前で軽く結んだり帯にはさんだりする、絞りなどの布。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の語句の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ

選べ。

(ア) 伽藍のような

18

- ① まるで寺院の内部のおごそかな雰囲気に含まれているような
- ② 内部がからっぽで、むなしさだけがふつふつと漂っているような
- ③ あるはずのものがなくて、空間の広さだけが感じられるような
- ④ 日常の時間とはまったく切り離された静けさの中にあるような

(イ) 筆の音がびたりと已む、また已めねばならぬ

19

- ① 原稿用紙のます目に文字を埋め進むことがなかなかうまくできない
- ② 筆記用具のインクと原稿用紙の相性がよいとは今ひとつ言えない
- ③ どこまで書き進めても、これでよしと言えるような達成感がつかめない
- ④ 小説を書いている自分の気持ちと書かれている内容が微妙に食い違う

(ウ) 身を逆さまにしないばかりに

20

- ① 身を逆さまにしようとするかのよう  
② 身を逆さまにしようとするばかりで  
③ 身を逆さまにしないように細心の注意を払って  
④ 身を逆さまにしないことを許容範囲として

問2

傍線部A「小指を掛けてもすぐ引つ繰り返りそうな餌壺は釣鐘のように静かである。さすがに文鳥は軽いものだ。何だか淡雪の精のような気がした」とあるが、この部分における表現の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

21

- ① 餌壺を寺院の釣鐘に、文鳥を淡雪の精にそれぞれたとえることで、宗教的で不可思議な気分を醸し出している。  
② 作りのしつかりした餌壺を重厚な釣鐘にたとえることで、文鳥の軽快な身のこなしを対照的にきわだたせている。  
③ かわいらしいくらいに小さな餌壺を釣鐘にたとえることで、文鳥の身軽な動きやいじらしさを強く印象づけている。  
④ 軽くて小さな餌壺をどっしりした古い釣鐘にたとえることで、文鳥のニューフェースぶりを鮮やかに描写している。

問3 傍線部B「その音が面白い。静かに聴いていると、丸くて細やかで、しかも非常に速かである」とあるが、どのような音が表現されているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

22

- ① 眠気をいざなうかのような、壮麗でゆったりとしたリズムの反復。
- ② 童話の世界に足を踏み入れたかのような、にぎやかな音のファンタジー。
- ③ 万華鏡の筒穴からのぞいたかのような、美しい色彩と音のハーモニー。
- ④ この世のものとはとても思えないような、可憐でひそやかな音の連続。

問4 傍線部C「その時女の眉は心持八の字に寄っていた。それで眼尻と口元には笑が萌していた」とあるが、その時の女の気持ち、筆者はどのように受けとめているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

23

- ① 不安とためらいの中で自分の今後に思いをめぐらせており、ちょっとしたいたずらでも受け入れたいが、目だけは笑ってくれた。
- ② 不安とためらいの中で自分の今後に思いをめぐらせてはいるが、ちょっとしたいたずらなら大目に見てあげようと、ふとほほえんでくれた。
- ③ 縁談が決まった喜びに満ちあふれ、すべてが上の空であり、ちょっとしたいたずらなら許してやってもいいかという、余裕のある笑いを示してくれた。
- ④ 縁談が決まった喜びとはうらはらに神経が過敏になっているせい、ちょっとしたいたずらでも見過ごせず、無理にも作り笑いをしてくれた。



問5 本文全体の内容の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

24

- ① 硝子戸の書齋の中で寂しさに包まれながら小説を執筆する筆者は、三重吉が持ちよった可憐な文鳥にしばしば心を癒されるが、朝寝坊のせいで十分な世話ができず、籠を箱に入れたり水易えをしたりするたびに、文鳥に神経を遣ってやらなければならぬ羽目に陥っている。
- ② 文鳥は、日課としての執筆のため書齋にこもる筆者のもとに、木枯の季節にやってきた小さな妖精であり、その首をすくめたり千代々と鳴いたりするいじらしい動作を眺めていると、かつて心ひかれた女の姿と重なって、うずくような思いに胸がしめつけられてしまう。
- ③ 弟子の三重吉の言葉どおりに鳴くようになった文鳥への愛着が、おもに書齋における孤独な時の流れの中で深まっていくのを、筆者はむしろ心地よく感じるとともに、ともすれば事情わけのあった女の姿と重ねることで、失ってしまった遠い過去をふと懐かしんでいる。
- ④ 文鳥のいくたびも千代々と鳴く声は、家人とはめつたに顔を合わせず書齋にこもる筆者の寂しさをさらに深めるかのように、かつて深みにはまった女との、ついにははかなく終わった恋の思い出が濃密によみがえってきて、それに縛られ、容易には逃れることができないでいる。

選択問題

Ⅲ

Ⅳ

のうち、いずれか一題を選んで解答すること。

Ⅳ

次の文章は、若き日の失恋と放浪をつづった阿仏尼あぶつにの日記『うたたね』の一節である。ある上流貴族の青年との短くも激しい恋に破れた筆者は、衝動的に出奔・出家しつつもなお男への未練が断ち切れず、ついには身を患い、しばらく都を離れ遠江とわじみ（現在の静岡県西部）の養父のもとに身を寄せる。十一月末、都からの便りで乳母めのとの病気を知るや、回りの者の心配をよそに再び都に戻ることにした。以下に続く文章を読んで、後の問い（問1～5）に答えよ。

いとうれしけれど、とにかくに思ひ分けにしことなく、なにと又都へ帰るらんと、あぢきなくもの憂うれし。こことても又たち帰らんこともかたければ、ものごとなごりに名残多かる心地するにも、うちつけにものむつかしき心のくせCになん。つねに寄り居つる柱の、荒々しきがなつかしからざりつるも、たち離れなんはさすがに心細くて、人見わくべくもあらず小さく書きつくれど、目ばやき山がつもやとつつましながら、

忘る(注1)なよ浅木あそぎの柱かはらずはまた来てなるる折もこそあれ

このたびはいと人少なDに心細けれど、都をうしろにて来しおりの心地にはこよなく、日数ひかずのすぐるも恋ひしき心地するぞあやにくに、わが心より思ひ立ちて出でぬれど、われながら定めなく、旅のほども思ひ知られざれど、いとはずに、日数もうららかにて、とどこほる所(注2)もなかりけるを、不破ふたの関(注3)になりて、雪ただ降りFに降りくるに、風さへまじりて吹きゆくも、かきくれぬれば関屋せまや近くたちやすらひたるに、関守せまもりの懐かしからぬ面持おももちとり(注4)にくく、何をがなとどめんと見出した(注5)るけしきもいと恐ろしくて、かきくらす雪間ゆきまをしはし待つほどにやがてとどむる不破(注4)の関守

京Gに入る日しも雨降り出でて、鏡(注4)の山もくもりて見ゆるを、下りし折も、このほどにては雨降り出でたりしぞかしと思ひ出でて、このたびはくもらばくもれ鏡山人をみやこのはるかならねば

かく思ひつづくれど、まことにかの人をみやこは近き心のみばかりにて、いつを限りにと思ひかへすぞ、またかきくらす心地しける。日たくるままに雨ゆゆしく晴れて、白き雲多かる山多かれば、「いづくにかHと尋ぬれば、(注5)比良(注6)の高嶺(注6)や比叡(注6)の山な

どに侍る」といふを聞くに、はかなき雲さへ懐かしくなりぬ。

I 君もさはよそのながめや通ふらん都の山にかかる白雲

(注) 1 忘るなよ浅木の柱かはらずはまた来てなる折もこそあれ||「今はとて宿離れぬとも馴れきつる真木の柱は我を忘るな」(源氏

物語) 真木柱の歌による。「浅木」は節の多い粗悪な材木。

2 不破の関||現在の岐阜県不破郡関ヶ原町にあった関所。古代三関の一つで、東山道をおさえる要地にあった。

3 何をがなとどめん||少しでも何かあったら私たちを引き留めてやろう。

4 鏡の山||現在の滋賀県蒲生郡と野洲郡の境にある山。歌枕。「くもりて」はその縁語。

5 比良の高嶺||現在の滋賀県西郡と京都府境を北東から南西に連なる山地。近江八景の一つ「比良の暮雪」に数えられた景勝地。

6 比叡の山||現在の滋賀県大津市と京都市左京区の境にある山。歌枕。山上には天台宗の総本山、延暦寺がある。

問1 傍線部A・C・E・Fのそれぞれの「に」について、傍線部H「に」と意味・用法が同じものを、次の①～④のうちか

ら一つ選べ。

25

① 傍線部A 「とにかくに思ひ分けにしことなく」——完了の助動詞「ぬ」の連用形。

② 傍線部C 「ものむつかしき心のくせに」——断定の助動詞「なり」の連用形。

③ 傍線部E 「日数もうららかに」——ナリ活用の形容動詞の連用形活用語尾。

④ 傍線部F 「関屋近くたちやすらひたるに」——事実を述べて次に続ける接続助詞。

問2 傍線部B「うちつけにもものむつかしき心のくせ」とあるが、この言葉に込められた筆者の気持ちとして最も適当なものを、

次の①～④のうちから一つ選べ。

26

① 乳母の身を案じて何はともあれ都に戻ろうとしている自分に対して、あたかも意地悪をするかのように引き留める養父の態度がうらめしい。

② 乳母からの便りは都に戻る機会を心ひそかに待っていた自分にとってはよい口実となってくれたが、養父への手前もあつてうれしさが顔に出せない。

③ 乳母の病気の知らせはたまたま自分が都に戻るきっかけになっただけで、何をするにせよ感情に流されやすく世話の焼ける自分の性格にはあきれてしまう。

④ 病気の乳母を見舞うために早く都に戻りたいのだが、養父の家を発たてば再び帰って来るとも難しいので、決断がつかない鈍鈍ってしまっそうだ。

問3 傍線部D「都をうしろにて来しおりの心地にはこよなく、日数のすぐるも恋ひしき心地するぞあやにくに」とあるが、そ

の現代語訳として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

27

- ① 都をあとにして来たときの気持ちとはまるで違って、日数の過ぎるのもどこかしいほどに都が恋しく思われるのは現金なもので、
- ② 都をあとにして来たときの気持ちとはまるで違って、日数の過ぎるのもどこかしいほどに都が恋しく思われるのは浅はかなもので、
- ③ 都をあとにして来たときの気持ちとほとんど同じで、日数の過ぎるのもどこかしいほどに都が恋しく思われるのは皮肉なもので、
- ④ 都をあとにして来たときの気持ちとほとんど同じで、日数の過ぎるのもどこかしいほどに都が恋しく思われるのは意外なもので、

問4 傍線部G「このたびはくもらばくもれ鏡山人をみやこのはるかならねば」、傍線部I「君もさはよそのながめや通ふらん

都の山にかかる白雲」とあるが、これらの二首の和歌に込められている筆者の気持ちとして最も適当なものを、次の①～

④のうちから一つ選べ。 28

① 幼いころから慣れ親しんできた乳母は、長らく会っていない自分を見捨てることはなく、いまだに引きずる私の心の痛みを慰めてくれるだろう。

② 幼いころから慣れ親しんできた乳母は、長らく会っていない自分のことをすっかり忘れてしまったに違いなく、今さら合わせる顔がない。

③ 懐かしい都の人たちに久しぶりに会えるのはうれしいが、自分をいともたやすく捨てたかつての恋人の情報が耳に届きがちなことでもあり、それがつらい。

④ 懐かしい都の人たちに久しぶりに会えるのはうれしく、自分の思い込みに過ぎないにせよ、かつての恋人もそんな私を思い遣っているかもしれない。

問5 本文の筆者が他に著した作品を、次の①～④のうちから一つ選べ。

29

① とはずがたり

② 十六夜日記

③ 明月記

④ 秋篠月清集